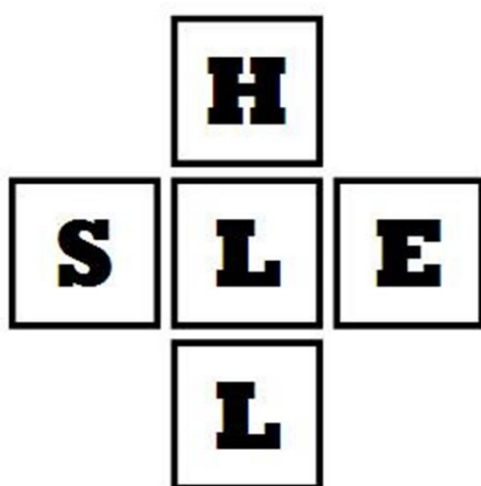


## オンライン課題の説明

SHELL モデルの作成を行う。

「SHELL モデル」の中心の「L」は自身であり、周囲を取り囲む「S, H, E, L」との関わりを表している。ヒューマンファクターは、人間自身の問題だけでなく、関連する周囲のあらゆる要素との接点において捉える。ここでは、N I T S（独立行政法人教職員支援機構）のオンライン教材を活用する。



H = Hardware  
(ハードウェア)  
S = Software  
(ソフトウェア),  
E = Environment  
(環境)  
L = Liveware  
(人間)

## 作成方法

- (1) 新聞記事などで学校事件や事故、課題を収集する。
- (2) テーマを決めて、SHELL モデルを作る。(テーマは自由)

四國新聞（2012年10月27日付け）より

**「氷上、白山小に爆弾」  
爆破予告、いたずらか**

26日午前8時15分ごろ、三木町役場の男の声で、「氷上小学校と白山小学校に爆弾を仕掛けた」との電話があった。両校は万が一に備え、児童約750人と、氷上小学校に隣接する氷上幼稚園の園児約60人を帰宅させたが、不審物は見つからなかった。

町は、町代表電話にかかった番号は非通知で、町から連絡を受けた面談は同日午後1時半ごろ、児童をスクランブルに一時避難させた。一時帰宅して同日9時15分ごろから順次、保護者と共に帰宅させた。この日悪質ないたずらとみて威力業務妨害の疑いで調べ、県警や町によると、電話授業の予定だった。同校に隣接する氷上幼稚園も園児約60人を帰宅させた。県警は約1時間、校内や学校周辺を捜索したが、爆発物らしきものは見つからなかった。

爆破予告について、町教育総務課は「学校側にトラブルなど思い当たることはない」と話している。白山小1年女児の母親は「子どもは何かあれば不安で仕方なかった。いたずらとして許せない」と憤っていた。

過去の授業者の資料を参照  
(許諾済)

こうした新聞記事を活用する。

ここから読み取れる流れや対応をまとめる。不明な部分は推測して記入して可。

以下が提出されたもの

SHELL モデルの課題 教職実践力高度化コース	
【新聞記事見出し】「氷上、白山小に爆弾～爆破予告、いたずらか」（四國新聞 H24.10.27）	
事案の概要（簡単に）	10月26日午前8時15分頃、三木町役場に男の声で「氷上小学校と白山小学校に爆弾を仕掛けた」との電話があった。両校は万が一に備え、児童約750人と、氷上小学校に隣接する氷上幼稚園の園児約60人を帰宅させたが、不審物は見つからなかった。
原因	・悪質ないたずらとみて、威力業務妨害の疑いで調べている。
背景・制約	<ul style="list-style-type: none"> <li>・氷上小学校は、幼稚園が隣接している。</li> <li>・氷上小学校も白山小学校も中規模校であるが、氷上小学校は近年住宅が増え、児童数が急激に増えている。</li> <li>・氷上小学校の校区には、代々住んでいる地元の住民と、新しく入ってきた住民が混在しており、田畑や資材置き場などで子どもが遊んで地域の人に迷惑をかけることが多々ある。</li> <li>・氷上小学校は、6年生が修学旅行中で、残る児童は通常授業の予定だった。白山小学校も6年生が校外学習だった。（両校とも校長不在）</li> <li>・電話は、町の代表電話に番号非通知でかかってきた。</li> <li>・町教委総務課は「学校側にトラブルなど思い当たることはない」と話している。</li> </ul>
S から見た教訓	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不審者・火災・地震対策のマニュアルを参考にし、避難指示が出たときの対応を共通理解しておく。</li> <li>・緊急自動車の誘導以外に、保護者への児童引き渡しの誘導も共通理解しておく。</li> <li>・緊急連絡メールシステムへの全家庭の加入をめざす。</li> </ul>
H から見た教訓	<ul style="list-style-type: none"> <li>・迎えに来た保護者の自動車があまく流れるような通路を確保する。</li> <li>・校舎に入れないときのメール送信の手段を確保しておく。</li> <li>・児童が速やかに校舎から避難できるよう、出口の段差をなくす。</li> </ul>
E から見た教訓	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校周辺に住宅が増えてきているので、そちらへの避難勧告や、道路の封鎖なども検討する。</li> <li>・報道関係者が勝手に取材をしたり写真を撮ったりできないように、門扉開閉を徹底する。</li> </ul>
L <他者> から見た教訓（町教育委員会）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校との連絡の取り方を決め、避難に使う交通手段の確保をする。</li> <li>・避難所への水や食料の差し入れについて、マニュアルを作っておく。</li> <li>・不審な電話がかかってきたときの対応について共通理解しておく。</li> <li>・学校近辺の地域住民への避難勧告の方法を検討する。</li> <li>・報道機関への対応の窓口を明確にし、一本化する。</li> </ul>
L <当事者> から見た教訓（学校）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の共有化を図り、避難する際の対応を全校で徹底する。</li> <li>・保護者が迎えに来られない児童の避難方法を決めておく。</li> <li>・連絡が取れない家庭への対応について共通理解しておく。</li> <li>・児童の心のケア（不安感などへの対応）を十分に行う。</li> <li>・いたずら電話など、人の迷惑になる行動についての指導を徹底する。</li> <li>・報道機関への対応の窓口を明確にし、一本化する。</li> </ul>

## 提出課題例

これまでの学校事故や事件を SHELL モデルで分析します。

SHELL モデルの作成（新聞記事の事件や事故でも、実際にあった事案でも構いません。なお、講義資料内に参考例があります。）

【タイトル】新聞の見出しなど	
事案の概要	簡単にまとめる
主たる原因	主たる原因を推測する
背景・制約	実際の学校現場を考え、どんな背景があったか、対応に制約されたものはないかを推測する
Sから見た 教訓	ソフトウェアから（例えば、マニュアルなど）
Hから見た 教訓	ハードから（例えば、施設など）
Eから見た 教訓	環境から（例えば、職員室の雰囲気とか学校周辺など）
L（他者）か らみた教訓	周囲の人的面から（例えば、上司・同僚や教委、地域など）
L（当事者） から見た教 訓	事件や事故の当事者（例えば、怠慢やヒューマンエラーなど）

（注）A4 両面で作成のこと（1ないし2枚で作成）